

## 東広島市の学生下宿問題について思うこと

理学部 代数学講座 小 池 正 夫

七月に東広島市の学生下宿問題が新聞紙上を賑わした。学生下宿問題は広島大学が東広島市に拠点を移しそこに新しい大学町を作つていくうえで重要であり、それについて全学の理解を深めることは大切だと考える。それについて学生部長の適切な説明を頂いたが、さらに私見を交えこの問題について書いてみたい。

### 指定下宿が 大学町の基盤になる

広島大学の学生が利用できるアパートは、指定下宿と一般下宿の二種類に分けられる。指定下宿というのは大学周辺は大半が市街化調整区域のため本来アパートは建てられないが、学生専用という条件付きで特例としてみとめられたものをさす。そのためには大学に書類を提出して証明をうる必要がある。ここに大学と学生下宿の大家さんとの第一の直接の接点がある。一般下宿とは市街化区域に建てられるアパートをさす。

### 移転する 学部学生の皆さんへ

来春に移転する学生の皆さんにとつても新記事はショックだったと思う。しかし東広

第二の接点は東広島市から交付される学生宿舎奨励金の適用の際にある。奨励金のおかげで一般下宿として建てられるアパートのなかにもこの適用を受けるため大学に指定の証明を求めるものがふえている。

この二つの接点を大学側は積極的にとらえ、下宿建設は民間の経済活動と言つてしまわなければいけない。東広島市のように今まで大学町がなかったような所では、大学を支えてくれる町が適当な早さで出来上がるのを手助けする方法を大学が色々考えるべきではないだろうか。法律の専門家を組織して大家さんの相談にのるとか、下宿する学生が地域にとけ込めるためのノウハウを伝授するなどして下宿経営が大学を支えてくれる重要なものとして位置づけたらどうであろうか。

### 附記

：生協不動産部の話によると、新キャンパス周辺の下宿は、広島市内に比較し選べる家賃の幅が狭く、値段も平均四万から四万五千円と割高なのが難点であるが、下宿は当然新しいものが多く、標準でトイレ・風呂付1K（六～八畳）か1DKで、一二m<sup>2</sup>程度と広く、料金の安い駐車場が付いているとのこと。

島の学生アパート事情については生協だより第五二号（一九九二年七月六日発行）に詳しい特集記事が組まれている。そのなかでの論点をまとめれば、去年の秋にくらべればアパート事情は好転しているので、一〇月から生協不動産部に、まず出かけて自分で状況をつかむなどして探し始めればよいでしょうとのことなので慌てることはないだろう。（附記）

大学当局も総合科学部移転対策専門委員会を設け、この下宿問題をふくめて具体的な対策を模索している。即効薬はない代わりに手をぬけばいつまでたつても困難な状況は続き、困るのは学生ばかりでなく広島大学自身の存在をおびやかす問題ともなるので、頑張ってもらいたいものである。総合科学部移転対策という立場当たりできに思えるので、総合科学部移転後も大学町の育成を考える委員会として大いなる力を発揮してもらわないと、東広島市に住んでいる人にとって広島大学が誇れるような存在になる道は遠のく気がする。